

## 坂ノ途中、国連開発計画(UNDP) スリランカ事務所とMOUを締結

### 山岳地帯の耕作放棄地で、スペシャルティコーヒーの産地づくりを推進

株式会社坂ノ途中(本社:京都市、代表取締役:小野 邦彦)は、国連開発計画(UNDP)スリランカ事務所と、スリランカにおけるコーヒープロジェクトの形成に向けたMOU(覚書)を締結しました。



UNDPは、貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発の促進を目的に、世界170か国以上で活動する国連機関です。今回のMOUの締結により、坂ノ途中の海ノ向こうコーヒー事業部とUNDPスリランカ事務所は、スリランカにおけるコーヒーを通じた地域振興を目指し、プロジェクト形成に向け協働していきます。

スリランカでは、中央山岳地帯を中心に紅茶栽培が長年行われてきましたが、近年は生産者の高齢化による人手不足等が深刻化し、耕作放棄

地の増加が課題となっています。また、紅茶の生産コストが他国に比べて高いことから、国際市場における競争力の低下も指摘されています。一方、スリランカは1870年ごろまでは世界有数のコーヒー生産地であり、コーヒー栽培に適した土壌を保有しています。加えて、昼夜の寒暖差が大きい山岳地帯の気候は、高品質なコーヒー生産に適した環境であり、将来的にスペシャルティコーヒーの新たな産地として発展する可能性を秘めています。

海ノ向こうコーヒーは、東南アジアを中心に、これまで9か国で産地における栽培サポートを手がけ、輸出、販売も含めた持続可能なサプライチェーンの構築を行い、コーヒー産地における森林保全と雇用創出に取り組んできました。今回の連携においても、こうした知見と実績を活かすことができると考えています。

公的セクターであるUNDPと民間セクターである坂ノ途中が連携することによって、開発支援の知見を活かした社会課題の解決につながるプロジェクトを、事業として持続可能な形でつくっていくことができます。両者はこの官民連携のもと、スリランカにおけるスペシャルティコーヒービジネスの発展に取り組んでまいります。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社坂ノ途中 広報担当:小西 TEL: 050-7111-4709 MAIL:pr@on-the-slope.com

## 海ノ向こうコーヒー事業部概要

ラオスやミャンマーなどアジアのスペシャルティコーヒーを中心に、世界30か国、100種類以上のコーヒー豆を販売。日陰を好むコーヒーの特性を生かして森を守りながら農作物を育てる「アグロフォレストリー」という農法を推進し、資金や販路構築のサポートを通して、産地の森林保全と生産者の所得確保を両立し、持続可能な農業と暮らしに向けて取り組んでいます。

URL : <https://uminomukou.com/>

### <2025年度の取り組み>

2025年9月：ガラパゴス諸島の生物多様性保全と小規模農家の生計向上事業

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000050.000041621.html>

2025年8月：コーヒーサプライチェーンの脱炭素化のためのGXモデル構築調査

坂ノ途中、3か国における、コーヒーサプライチェーンの脱炭素化のためのGXモデル構築調査が、経済産業省の令和6年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（小規模実証・FS事業）に採択

2025年5月：書籍「世界のビジネスエリートが身につけているコーヒーの教養」を刊行

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000040.000041621.html>

### <株式会社坂ノ途中>

環境負荷の小さい農業を実践する生産者の増加を目指し、農薬や化学肥料不使用で栽培された農産物の販売を行っています。全国約400軒の生産者と提携し、うち約8割が新規就農者です。「坂ノ途中の研究室」では、自治体や大学、企業と連携した調査や研究、就農希望者向けの研修などを実施。農業分野を代表するソーシャルベンチャーとして事業成長を続けています。

京都市「これから1000年を紡ぐ企業」、経済産業省「地域未来牽引企業」、「J-Startup Impact」など、受賞多数。「行政との連携実績のあるスタートアップ100選」にも掲載。

代表者：小野 邦彦 本社所在地：京都市南区上鳥羽高畠町56 設立日：2009年7月21日

資本金：50百万円 会社URL：<https://www.on-the-slope.com/corporate>

### <報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社坂ノ途中 広報担当：小西 TEL：050-7111-4709 MAIL：pr@on-the-slope.com